



タック TACの家庭菜園教室



TAC（タック＝営農経済渉外）が家庭菜園を行う際のポイントや注意点などをじっくり分かりやすく解説いたします！

秋冬プランター栽培での害虫対策

近年、秋冬の気温が以前より高いため害虫の活動期間が長く、また、生存数も増えています。秋冬になって涼しくなったからと油断せず、害虫対策を行うことが大切です。

11月までは害虫が活発です。作物が小さいうちはダメージが大きくなるので、葉などが食べられてしまわないよう、しっかり観察しましょう。被害が見られた場合は、回数制限のない薬剤や比較的残効の長い薬剤を使用して防除しましょう。防虫ネットなどを活用し、害虫を寄せ付けないことも大切です。

TACのオススメは
こちらの商品！

デルフィン顆粒水和剤

害虫が作物を食べると
すぐに効き始めます。
よく溶けてまんべんなく付着し、安定した効果
が得られます。



防虫ネット 設置ポイント



- ・害虫や鳥が入らないように下まで覆う
- ・水やりができるよう、下部は固定しない

【秋冬野菜の代表的な害虫】

①ダイコンサルハムシ

大根やカブなどを好んで食べます。葉脈を残して葉を食べ、葉に穴が開いてしまいます。夏の終わりから秋にかけての被害が多く見られます。

②アブラムシ

多くの作物の葉裏に寄生します。増えると寄生された葉は萎れはじめ、緑色から黄色に変色して最終的には株全体が枯れてしまいます。高温や乾燥の気候が続くと発生しやすく、増殖スピードも早いので注意が必要です。

③ハスモンヨトウ

多くの作物の葉などを食い荒らします。小さいうちは集団で葉裏に発生し、表皮を残して加害します。大きくなると葉脈以外を加害して、葉に不規則な穴を開けます。高温で雨が少ない年に発生が多く、9～10月に特に多く発生します。

④コナガ

表皮を残して葉肉だけを食害するため、加害された葉は不規則な形に透けて見えます。低温で乾燥した気候が続くと発生量が増加します。農薬への抵抗性がつきやすい虫なので、同じ系統の農薬は続けて使用しないようにしましょう。

被害が大きくなる前に対策を



早期防除！

早期発見！



葉の裏表をよく観察してみましょう

早期発見・早期防除が作物の生育に大きく左右します。
薬剤散布は周囲への飛散に気を付けて、晴れた日の午前中に行うようにしましょう。

栽培に関する疑問など、お気軽にTAC（タック）までお問い合わせください。

お申込み・お問い合わせ JA足利 営農振興課 ☎0284-22-4433(担当:TAC)

または 経済課 ☎0284-70-3071 富田センター☎0284-43-8880

北支店(経済)☎0284-43-8880 西支店(経済)☎0284-65-1139